

平成31年



とまり

# 議会だより



育児ママ交流会 節分 (2月1日)

No.171

平成31年3月 発行

発行/泊村議会 責任者/議長 結城 智

〒045-0202

北海道古宇郡泊村大字茅沼村字臼別191-7

TEL 0135-75-3451

平成  
30年

## 第4回 定例会

会期 12月13日～17日

平成三十年第四回泊村議会定例会は、去る十二月十三日に招集され、会期を十七日までの五日間と定め、開会初日十三日は、議長の諸般の報告と村長から、第三回定例会以降の行政報告、教育長から、教育行政報告が行われた後、人事案件一件・議案四件を審議採決、その他の議案六件の提案理由の説明を受けました。

十八日は、議案六件を審議採決し、全日程を終了し、閉会しました。

## 行政報告

## 牧野村長

平成二十九年度後志広域連合各会計の歳入歳出決算概要

後志広域連合の平成二十九年度各会計決算は、去る十一月五日に開催された第二回後志広域連合定例会において認定されました。

一般会計の決算額は、歳入総額九五、三八六、九三一円、歳出総額九二、九四四、七二八円、差引総額二、四四二、二四二円となり、翌年度へ繰越しとなっております。

国民健康保険特別会計の決算額は、歳入総額九、三四六、六七一、一六二円、歳出総額九、一一三、三〇七、四二〇円、差引総額二、二三三、三六三、七四二円となり、翌年度へ繰越となっております。

介護保険特別会計の決算額は、歳入総額六、二七六、四〇四、六三九円、

歳出総額五、八六三、六〇九、〇五一円、差引総額四一二、七九五、五八八円となり、翌年度へ繰越となっております。

平成二十九年度岩内・寿都地方消防組合の歳入歳出決算概要

岩内・寿都地方消防組合の平成二十九年度各会計決算は、去る十月十六日に開催された第二回岩内・寿都地方消防議会定例会において認定されました。

歳入総額一、一八五、八一四、三三二円、歳出総額一、一五八、九三四、二六二円、差引総額二六、八八〇、〇七〇円となり、翌年度へ繰越しとなっております。

平成二十九年度岩内地方衛生組合の歳入歳出決算概要

岩内地方衛生組合の平成二十九年度各会計決算は、去る十月十六日に開催された第二回岩内地方衛生議会定例会において認定されました。

歳入総額一、八四七、四二四、六二〇円、歳出総額一、八一〇、二四四、五六七円、差引総額三七一八〇、〇五三円となり、翌年度へ繰越しとなっております。

## 村有地の売却について

平成二十九年九月より、村内に住宅建設を希望する村民等に対し、住宅用地として遊休村有地の売却を推進し、定住促進と移住人口の確保・増加を図ることを目的に、滝の淵地区の村有地を三区画に分筆し、売却を行ってきておりましたが、この度、全区画が完売したところであります。

今後も、遊休村有地の活用による住宅用地の確保・売却を進め、定住促進と移住人口の確保・増加を図り、少しでも他市町村への人口流出の歯止めをかけたいたいと思っております。

## 【参考】

- 売却者 ↓ 全て村民
- 平成二十九年度一区画売却
- 平成三十年度に区画売却

平成三十年度泊村原子力防災訓練実施結果について

平成三十年十月二十二日(月)、台風と原子力災害との複合災害を想定した、原子力防災訓練を実施しました。昭和六十三年の第一回目から数え、冬期訓練も含め、三十五回目の訓練でした。

訓練参加者は札幌市・黒松内町への広域避難者、役場職員、村内各団体等を含め二三百人でした。

今回の訓練では、役場本部とバス責任者でIP無線機を活用し、情報交換を行い、車内で避難者に伝えるという、情報共有の充実化を図りました。

また、避難先のアパホテル札幌で宿泊体験(住民十四人参加)、翌日には、地域学習会を実施しました。

今後も訓練を重ね、防災意識の高揚と防災対策に関する理解促進に、一層取り組んで参ります。

盃地域会における「防災訓練」の実施について

去る、九月二十九日(土)、盃地域会におきまして、地震による津波を想定した、七回目の防災訓練が実施されました。

訓練には、九十九名が参加し、避難先である泊小学校・ホテル潮香荘の台・茂岩地区野営場の三ヶ所へ避難を

行い、避難者数・避難に要する時間・避難経路の確認・課題などが話し合われました。

消費活性化事業(プレミアム商品券発行事業)の実施状況

村として、村外への購買力流出を阻止し、地域商工業の消費拡大と活性化を図ることを目的とし、「プレミアム商品券発行事業」を今年度よりプレミアム率を三割から二割に引き下げて、泊村商工会への委託事業として実施しております。

【夏季プレミアム商品券 発行事業実績報告】

○委託期間 平成三十年六月十五日

○発行総数(セット数) 六千セット

○プレミアム率 二〇%

○販売期間 平成三十年六月十五日

○取扱店 村内商店 五十八店

○未換金分(残七二五セット)

※平成三十年十月十五日事業完了に伴う実績は、販売額六三、三〇〇千円

に対して、換金済額六三、二一五千円

で、換金率九九・八七%となりました。

●未換金分 八五千円×2/割

(プレミアム分) 一四千円を戻入

●未販売分(七二五セット)について、泊村商工会と販売実績を分析し、今後の商品券発行事業の内容について再度検討していくこととする。

【冬季プレミアム商品券 発行事業の概要】

一セット一二十千円分の商品券を

一〇千円で販売。

○委託期間 平成三十年十一月一日

○発行総数(セット数) 六千セット

○プレミアム率 二〇%

○販売期間 平成三十年十一月十五日

○取扱店 村内商店 五十六店

○使用期限 平成三十一年二月二十八日

○未換金分(残七二五セット)

※平成三十年十月十五日事業完了に伴う実績は、販売額六三、三〇〇千円

に対して、換金済額六三、二一五千円

で、換金率九九・八七%となりました。

●未換金分 八五千円×2/割

(プレミアム分) 一四千円を戻入

【開通式】

とき 平成三十年十二月八日(土) 午後一時

ところ 余市町 ホテル水明閣

【開通日・区間】

平成三〇年十二月八日 十五時開通

今回開通区間 二・三・三 km

【時間短縮】

札幌中心部から余市町まで所要時間短縮七十四分から五十五分

【期待される主な開通効果】

①観光の活性化

道央圏から後志地域への所用時間短縮により、観光地へのアクセス性が向上し、更なる観光客が期待される。

②地域の安全・安心な暮らしに寄与

三次医療施設までの搬送時間短縮などによる後志地域の救急医療体制の強化により、地域の安全・安心な暮らしに寄与されることが期待されます。

③農水産品の輸送の利便性向上

迅速性・安全性の向上や安定的な輸送により、地域の特産品などの販路拡大や輸送品質の向上が期待される。

④国道五号の安全性の向上と代替路確保

国道五号の走行安全性の向上や津波災害時の広域避難路、緊急輸送道路としての機能が期待される。

⑤噴火災害時の代替路確保

噴火リスクが高い有珠山や樽前山

の噴火災害時において、道央圏と道南圏を結ぶ広域的な代替路や避難路としての機能が期待される。

## 教育行政報告

### 森教育長

#### 学校教育関係

十月六日に、泊中学校文化祭、十三日に、泊小学校学習発表会が開催されました。

小学校のテーマは、「笑顔・協力・最高の発表会を」、中学校では、「望々MAKEBELIEVE」をテーマに掲げて発表し、児童生徒一人一人の持ち味が十分生かされ、伸び伸びとした発表が見ている皆さんを感動させておりました。

地域公開参観日が、今年も児童生徒の学習や生活の様子を地域の人たちに観てもらおうと、十一月一日に泊中学校、十一月六日に泊小学校で行われました。

たくさんの方が来校し、授業参観された後、感想やお気づきの点をアンケート用紙に記入していただき、今後の学校運営の参考にするなど、有意義に終えました。

#### 社会教育関係

十月二十七日・二十八日に公民館まつりを行いました。

今年は、はじめて、二十七日に「福祉まつり ふれあい広場」と合同で開催しました。

地域の皆さんの多数のご来館があり、盛りだくさんの心のもった作品の鑑賞などで賑わいました。

二十八日は、地域の皆さんにじっくり作品を鑑賞していただいております。

十月三十一日には、泊小・泊中学校の学校評議員八名と校長・教頭先生、そして、教育委員会とで「泊村コミュニティ・スクール」導入に向けての準備会を組織しました。

次いで、十一月二十九日に、PTAや教職員、教育関係に関わっている地域の皆さんの参加の下、講師を招いて、泊村公民館で「コミュニティ・スクール」の学習会を行っております。

例年実施している教育講演会を十一月六日に、泊村公民館において、講師に、元ノルディック複合団体でオリンピック金メダルに輝いた阿部雅司さんを迎えて開催しました。

講師より、特に、「失敗を次に生かすこと。何事も継続してやること。辛い時こそ笑顔を忘れないこと。」などが話され、熱心に聞き入っております。

#### 管理する施設の利用状況

\*とまりカブトラインパーク

十一月十一日に営業を終了し、利用人数は、四、一九六名で、昨年より、九八九名の増となりました。

\*鯉御殿とまり

十一月十一日に閉館しました。今年の入館者は、二、六七四名で、昨年より三二〇名の増となりました。

\*とまりアイスセンター

十一月末現在の利用者数は、一三、二九名で、前年対比一、〇三八名の減となっております。

## 審議した議案

人権擁護委員候補者の推薦について

..... 原案同意

人権擁護委員候補者として、大橋芳之氏の推薦を満場一致で同意されました。

工事請負変更契約の締結について..... 原案可決

一. 工事の表示

(一) 名称 泊村情報通信基盤整備工事

(二) 場所 古宇郡泊村一円

二. 契約金額 二三五、四四〇、〇〇〇円

三. 変更後契約金額 二二二、九二二、八〇〇円 (二二、五一七、二〇〇円の減額)

四. 契約の相手方 代表者

住所 札幌市中央区大通西四十四丁目七番地

氏名 東日本電信電話株式会社 北海道事業部長

五. 理由

光ケーブルを共架することで強度不足となり、北海道電力で改修しなければならぬ電柱の本数が、当初予定していた本数より少なくなったため、北電柱改修工費を減額する。

また、北海道開発局管理の情報ボックスの使用区間延長や光ケーブルの敷設距離が増えるため、設計変更を行う。

●北電柱改修費の減

●情報ボックス使用区間延長の増

●光ケーブル敷設距離の増

## 条例の改正・制定

・泊村職員の給与に関する条例の一部改正について..... 原案可決

・泊村特別職員の給与に関する条例の一部改正について..... 原案可決



## 泊村議会（原子力発電所対策特別委員会）道外視察研修報告書

## 1. 視察目的

原子力発電所立地村としての課題や問題、解決策などの知識を深めることを目的とし、これらの課題解決のために積極的な施策を推進している先進地を視察・研究するとともに、議員の資質の向上と議会活動の活性化を図り、もって村政の健全な発展に寄与することを目的とする。

## 2. 視察日程 … 平成30年11月27日～30日

## 3. 視察先 … 愛媛県伊方町役場・佐賀県玄海町玄海原子力発電所

## (1) 愛媛県伊方町役場（平成30年11月28日）

この度、研修先に伊方町を選定させていただいた理由・目的は、2004年まで、泊村同様不交付団体を誇っていたが、2005年から交付団体との情報があり、泊村も数年後には同じ状況になるとの思いで、交付団体となった以降の町づくり・人口減少対策や少子高齢化・地域振興対策等々について、行政・議会と情報交換し、泊村の地域振興対策に活かして行きたいとの思いで、伊方町に決めさせていただいた。

11月28日、午前10時より、伊方町委員会室にて、濱松副町長・菊池原子力発電所対策特別委員会委員長・高月副委員長・橋本総合政策課長・阿部原子力政策室長の皆様のお出迎をいただき、この度の研修に対応いただきました。

特に、中田議会事務局長には、受付・進行など大変お世話になりました。

## 【研修内容】（事前に通知）

## 問1 立地町として、核燃料税の考え方・取組みについて

（道県で課税している核燃料税が立地地域に使用されているか。）

- ◎ 平成22年度に伊方町への配分として、税率13%の内の1%の5分の4の額（約47百万円）が交付され、以降同率で毎年交付されている交付金を原子力政策室職員の給与及び広域施設事務組合（消防本部）への負担金に充当している。

## 問2 立地町として、固定資産税（大規模償却資産）の考え方・取組みについて

（固定資産税は、減価償却されて年々減額となっていくが今後は廃炉を考えた固定資産税のあり方の検討が必要と考えるが。）

- ◎ 立地町として、発電所との共生のための財源として、使用済核燃料税（町税）をかねてより検討しており、東日本大震災により検討を中断した時期もあったが、平成29年度より検討を再開し、平成30年度より課税を行うことになった。税率は、1kg当たり500円で、平成30年度の税額は約3億3千万円。

## 問3 各種交付金の使途について

（予想される交付金で建設した建造物の維持・補修、さらに各種事業の管理・運営に係る経費のために、基金等積立を行っているのか。）

- ◎ 伊方町が造成した基金
  - ①伊方町電源立地対策交付金公共用施設維持運営基金  
町民の生活に密着した施策、施設を効率的・効果的に維持運営することを目的として、平成21年度に造成した基金。  
○平成29年度末基金残高 …… 約18億2千万円（必要に応じて追加造成）  
各種施設の人件費・電気代等に年間5億円程度を充当。
  - ②伊方町電源立地促進対策交付金施設維持基金  
電源立地促進対策交付金事業により整備した公共施設の修繕、その他の維持・補修を行うため、昭和57年に造成した基金。  
○平成29年度末基金残高 …… 約5億2千万円（必要に応じて追加造成）
  - ③伊方町電源立地地域対策交付金施設維持補修基金  
電源立地地域対策交付金を活用して整備した公共施設の補修、その他の維持・補修を行うため、平成18年に造成した基金。  
○平成29年度末基金残高 …… 約5億5千万円（必要に応じて追加造成）

## 問4 地域振興への取組みについて

（地域振興は、あくまで立地地域の施策で進めなければならないが、原子力発電所立地村として電力会社との関わりも重要となってくると思うが。）

- ◎ 四国電力の若手社員と伊方町役場の若手職員との交流意見交換をこれまでも続けてきたが、発電所以外の町づくりに対しての具体的な協力体制等の検討、農漁業振興対策で何が出来るか、観光の振興等さまざま幅広い分野で合携えて一緒に町づくりをやってもらいたい。四国電力が持つ四国全域の強固なネットワーク及び人材の多さを活かし、町づくりに活かせる施策がないか検討中、福島事故以降、原子力発電所に対する世論は厳しいが、町にとって四国電力は町内で比類のない巨大企業であり、町政に対して非常に協力的な事業者である。（町長談話）

## 問5 地域住民サービス等の取組みについて

（泊村としては、発電所については、国策（再稼動は国が決める）であることから、国民から悲観されることがないように、住民のための各種サービスを提供していかなければならない。立地地域としての各種サービスとはどんなものを実施していますか。）

- ◎ 立地地域特有の財源である電源三法交付金を活用し、地域住民サービスに資する事業として、これまでにさまざまな実施をしたが、先進的な事業や特徴ある事業の主なものについて。
  - 防災行政無線設備整備事業（平成20年）  
合併後も旧町単位で運用されていた防災行政無線を統合し、併せてデジタル化及び高機能化（個別受信機の全戸配付、屋外拡声子局からの通話、本卓での一括制御等）を図った。

## とまり議会だより

### ○町内小学校ICT整備事業（平成27年度）

町内小学校への全児童分のタブレット「アイパッド」端末及び1学年に1台の電子黒板等を整備。

### ○町内小中学校空調設備整備事業（平成30年度）

- ・町内小中学校の普通教室及び使用頻度の高い特別教室に空調設備を整備（2億8千万円）
- ・地域環境対策作業事業（平成23年度より充当）  
町道管理のための作業員を雇用し、年間を通じて町道の伐採、草刈等を実施。

### ○一般向け放射線セミナーの実施

平成29年度より、年に町内3ヶ所で一般向け放射線セミナーを開催。（平成28年に規制委員会と町民との話合いの中で、町民から放射線とは何か、怖いものなのかとの質問があり、放射線について理解していただくために実施している）

### ○交通事情 …… 町民の移動は主として自家用車を利用

伊方町は、平成17年4月1日に佐田岬半島の伊方町・瀬戸町・三崎町が新設（対等）合併。佐田岬半島は、日本一細長い半島で、町民生活における中心的な役割を担う国道で197号線（佐田岬メロディーライン）の公共交通はバスが中心であるが、赤字路線便数が少ない。そこで、町民の移動手段確保のために、町営バス（デマンド）を運行。

- ・運行車両 ワゴン車5台
- ・運行時間 午前8時～午後4時迄
- ・運行費用 年間約3千万円～2千7百万円

現在、泊村では、バス会社に赤字補填として、岩宇4カ町村で補助しております。

泊村分として、約1千9百万円、無料バス券代として、約960万円、合計2,800万円（平成29年度分）補填しているが、毎年度減便されて、住民の皆様から苦情が多く寄せられており、昨年度から、村営バスの導入について、行政と話合いを進めている中で、今回、伊方町の運営について、大いに参考になる内容で、各議員が熱心に質問をされておりました。

### ※結びに

泊村同様不交付団体を誇っていた伊方町が2005年から地方交付税で厳しい自治体運営の中で、人口減少に対する取組み・基幹産業への手厚い支援策など、手厚い住民サービス等々、今後の政策に活かせることが出来る内容の濃い研修であった。議員の皆様から時間が足りなかったという言葉も聞いて、泊村の将来を真剣に考えている議員各位の熱意を感じた視察研修であった。

泊村と伊方町は、同型の発電所が御縁で、平成10年2月に、姉妹提携を結んでから20年目になります。今後も、議会、議員交流、情報交換が定期的に行われることを提案し、結びとします。

### （2）佐賀県玄海町玄海原子力発電所（平成30年11月29日）

東日本大震災以降停止していた発電所が、川内原子力発電所に続き、この度、玄海原子力発電所も再稼働された。同型の原子力発電所が次々に再稼働されたことに羨ましくもありますが、反面心強くもあり、泊発電所も規制委員会の審査が通り、一日も早い再稼働されることを願いながら、再稼働された玄海原子力発電所の再稼働に向けた取組みについて、視察研修を実施した。

### 【研修内容】

1. 原子力発電所の現況について
2. 玄海3・4号機 適合性審査及び再稼働工程の取組み状況
3. 玄海3・4号機 安全対策の実施状況について
4. 玄海原子力発電所の重大事故への対応訓練状況について

以上について、玄海エネルギーパークの多目的ホールにて、原子力発電所所長の小西様より再稼働に向けての取組み内容について説明を受け、その後、サイエンス館で実物大の原子炉を視察後、発電所構内を視察。泊発電所と同型であり、安全対策や施設については、規模こそ違いますが、内容的には同じであったが、泊発電所と違うところは、台風（竜巻）対策について、力点を置いて説明をされていたのが、特に印象に残った視察研修でありました。

この度の視察研修は、先進地の取組み、事例、状況について、今後の泊発電所の再稼働に向けた、安全・安心対策の取組みに参考となる視察であった。

平成30年12月10日

原子力発電所対策特別委員会 委員長 酒 井 元 純



# 議会 日誌

平成三十年十一月一日～  
平成三十一年一月三十一日

## 11月

3日 第53回泊村功労者表彰式  
(議長・各議員出席)

9日 例月出納検査 (両委員出席)

19日～21日

「北海道横断自動車道に係る中央要望」 (東京都 議長出席)  
第62回町村議会議長会全国大会 (東京都 議長出席)

22日 全員協議会  
産業経済常任委員会  
(酒井議員他各議員出席)

議会だより編集委員会  
(全委員出席)

23日 国道5号俱知安余市道路(俱知安～共和)着工式  
(共和町 議長出席)

27日～30日

泊村議会(原子力発電所対策特別委員会)道外視察研修  
(愛媛県伊方町・佐賀県玄海町 梅庭・吉田議員他各議員出席)

## 12月

3日～6日

村政懇談会 (各議員出席)

7日 議会運営委員会 (全委員出席)  
8日 後志自動車道余市IC～小樽JCT開通式典 (余市町 議長出席)

12日 例月出納検査 (両委員出席)

13日 第4回泊村議定会定例会  
(酒井議員他各議員出席)

17日 第4回泊村議定会定例会  
(全議員出席)

19日 北海道家庭医療学センター訪問 (札幌市 議長出席)

25日 北海道電力株佐藤会長他来訪 (議長出席)

26日 平成30年第2回岩内地方衛生組合議会臨時会  
(岩内町 梅庭・酒井議員出席)

平成30年第2回岩内・寿都地方消防組合議会臨時会  
(岩内町 副議長出席)

## 1月

7日 泊消防団出初式  
(議長・各議員出席)

10日 泊救難所盃支所平成31年出初式  
(議長出席)

13日 泊村成人式 (議長・各議員出席)

16日 例月出納検査 (両委員出席)

18日 泊村商工会新年交礼会  
(議長出席)

20日 第三地域会新年交礼会  
茅沼地域会新年交礼会  
堀株地域会新年交礼会  
(議長出席)

渋井地域会新年交礼会

22日～23日

(小林委員長出席)  
原発議長会役員会及び原発サミット実行委員会合同会議  
(東京都 議長出席)

23日 岩内建設業協同組合及び岩内建設業協会新年交礼会  
(岩内町 議長出席)

25日 泊建設業協会新年交礼会  
(議長出席)

26日 盃地域会創立70周年記念式典及び平成31年新年交礼会  
(議長出席)

29日 後志広域連合議会全員協議会  
(俱知安町 議長出席)

# お願い

行事案内など、議長宛の文書は  
議会事務局へお届け願います。

# 編集後記

「議会だより」第一七一号をお届けいたします。

今回は、十二月の第四回定例会、十一月二十七日～三十日に実施された道外視察研修について編集いたしました。

ぜひご覧になって、村の方針や議会活動もご理解を深めていただきたいと思います。

また、議会だよりに対するご意見・ご要望等がございましたら、遠慮なく議会事務局までご連絡下さい。

## 議会だより編集委員会

結城 智  
三浦 弘文  
宇留間 文宣  
小林 常次  
吉田 茂樹